

第1章

課題処理（判断推理）

課題処理（判断推理）は、学習した当初は皆さん嫌がる単元です。しかし、最初にできるようになる単元でもあります。まずは理解することに力を注いで、その後は問題演習を繰り返してください。そうすれば、いつの間にかできるようになっている単元です。

1 集合（出題ランク：C）

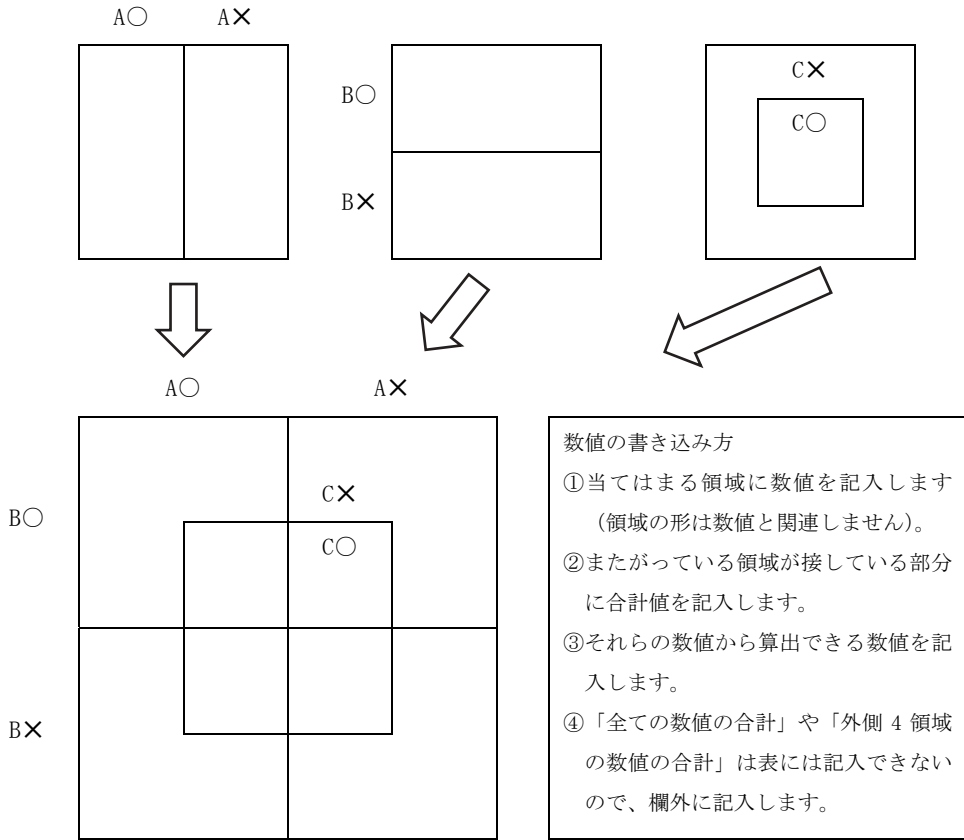
集合では、キャロル表とベン図を学習します。1つの問題に対して、どちらでも解くことが可能ですが、作業量や手順の関係で、どちらを使った方が「解きやすいか」という違いはあります。具体的な数値が多く与えられている問題ではキャロル表の方が、3つのうち1つのみ・2つのみというような情報が与えられている問題ではベン図の方が解きやすいといえるでしょう。そうはいつでも、好き・嫌いもあるので、自分が解きやすいと感じる方で解いてもらって構いません。

1-1 キャロル表（出題ランク：C）

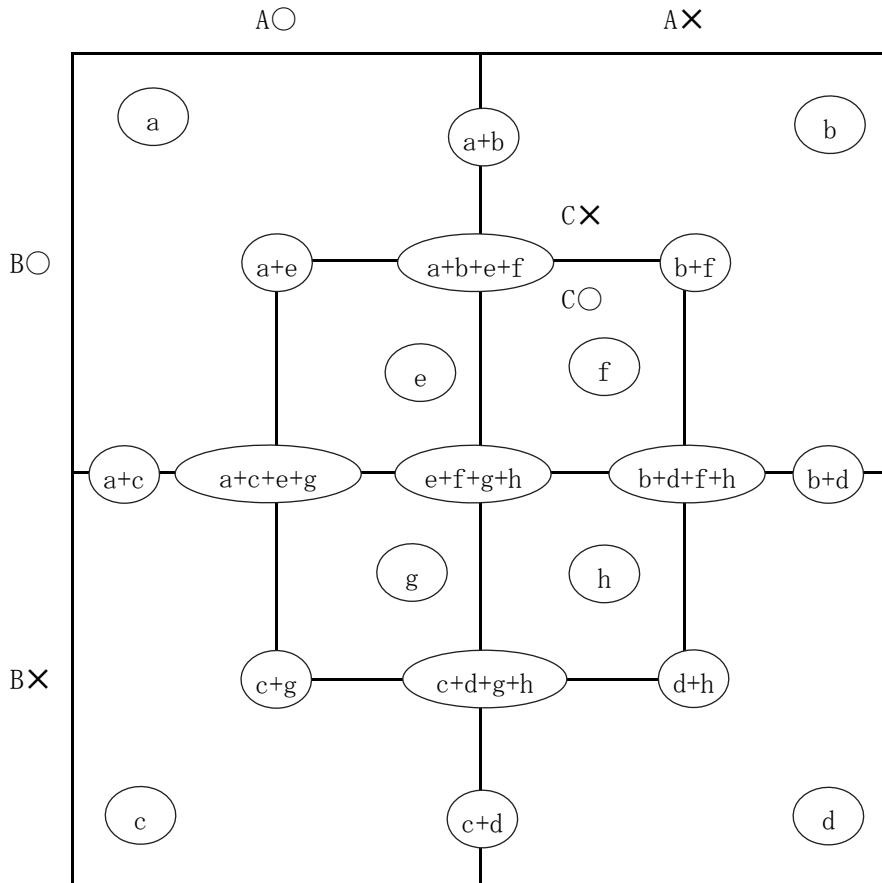
キャロル表とは

キャロル表とは、3つの要素を1つの表にしたものです。通常、3つの要素を1つの表に書き込むことを考えると、関数のように x 、 y 、 z を使用することになります。しかし、それは立体的な表記方法であり、平面的な表記方法ではありません。仮に、立体的に表記しても非常に見にくく使いにくいものになってしまいます。そこで、考え出されたのが、平面的に表記するキャロル表というものです。

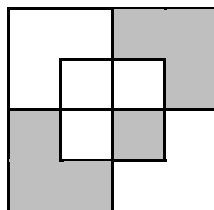
キャロル表は、例えば、「Yes・No」「いる・いない」「男・女」などで判断できる事柄について領域を縦に2つに分けたもの、横に2つに分けたもの、内外で2つに分けたものを1つの表にしたものです。その表に、数値を記入して求める数値を算出します。



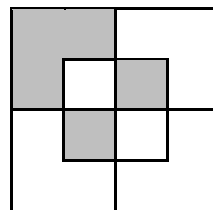
数値を記入する場所と計算方法を以下にまとめておきます。



ただ、キャロル表も万能ではなく、3要素の問題までしか使用できません。しかし、4要素の出題はほぼないといえるので、問題はありません。また、どの要素かを確定せず、「1つの要素のみ」「2つの要素のみ」という数値も記入することができないので、その場合には、文字と式を併用するか、後に学習するベン図を使って解くことになります。



1要素のみ



2要素のみ